

—学校教育目標—

豊かな心をもち

自ら学ぶたくましい子

(1)よく考えねばり強く学ぶ子

(2)心豊かで思いやりのある子

(3)すすんで体をきたえる元気な子

学校便り

第30号

仲井真っ子

H30年10月24日(月)

那覇市立

仲井真小学校

発行責任者

校長 宮里 寧

TEL 917-3330

全体朝会(音読・音楽)

3年生から「俳句」の紹介!!



本日24日(水)体育館で全体朝会がありました。3年生が担当です。国語の時間に学習した「俳句」と音楽の時間に学習した「合唱(世界中の子どもたち)」を披露してくれました。

さて、本校は初代の中村秀雄校長と奥様が俳句に造詣が深かったということで、毎年、俳句名人の先生を迎えての特設授業があります。私も運よくその授業に参加することができました。俳句について学ん

だことを紹介します。俳句は世界でいちばん短い詩です。江戸時代のはじめに現れた松尾芭蕉によって文学として完成されました。

俳句の特色は次の三つです。まずとても短いこと。俳句はわずか十七拍しか言葉が使えません。このため俳句には言葉でいわない部分がたくさんあるので、読者は想像力を働かせて俳句を読みとかなければなりません。次に俳句には五七五というリズムがあります。そして季語(季節をあらわす言葉)を入れるという約束があります。リズムと季語、この二つは短い俳句を広大な宇宙に結びつける働きをしているそうです。

このような俳句には三つの魅力があります。まず地球の自然やそれを取りまく宇宙に親しめること。次に、自分の知らないたくさんの言葉を学べること。第三に短い言葉にこめられた人の気持ちがわかるようになることです。

今日は、たくさん学習した中から3年生が選びぬいた秋の俳句を紹介してくれました。楽しいリズムでの群読と、わかりやすい解説がありました。聞いている子たちから、「法隆寺ってどこにあるんだろう」と声があり、隣の子が「奈良県だよ」と答えてました。俳句のリズムを楽しみたい、俳句に出てくる日本をもっと知りたいというきっかけになったと思います。

3年生の皆さんありがとうございました。

〈3年生が紹介した秋の4つの俳句〉

○柿^{かき}食^くえば鐘^{かね}が鳴^なるなり法隆寺^{ほうりゅうじ} 正岡子規(まさおかしき)

○とどまればあたり^{あたり}にふゆる蜻蛉^{とんぼ}かな 中村汀女(なかむらていじょ)

○この道は行く人なしに秋^{あき}の暮^{くれ} 松尾芭蕉(まつおばしょう)

○によつぽりと秋^{あき}の空^{そら}なる富士^{ふじ}の山^{やま} 上島鬼貫(うえしまおにづら)

